（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社大渕産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	熊本県八代市昭和日進町字会通152-3		
自己評価作成日	平成29年3月13日	評価結果市町村受理日	平成29年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームに入居してもこれまでの生活を続けられるように、利用者の「したい。行きたい。」に応えられるよう、スタッフ一同頑張っています。利用者の思い、願いを聞き逃さないよう、利用者との会話を大切にするよう心がけています。また、本社が米屋ということもあり、食には力を入れており、国産品を使用することはもちろん、旬の素材を献立に取り入れたり、お祝いの時は主役の希望で献立を考えご利用者様と一緒に食事を作ることに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新年度法人に新たなグループホームが開設されることで、職員の異動に伴う入れ替えが行われている。管理者は今回介護理念を作り上げた経緯について、職員意見を尊重すべきだったと真摯に語り、今後しっかりと浸透させていきたいとしている。地域との繋がりを更に深めたいとして、昨年度より地元の小・中学校や保育園へ足を運んだ事が実を結び、小学生の体験学習の受け入れや保育園児の訪問は地域貢献にも繋がり、人々との新たな触れ合いが生まれている。ホーム内は広いリビングやゆとりある居室に加え、雨の日でも中庭を望む通路が生活リハビリの場となり、真新しいソファやテーブルで談笑する入居者の表情が生き生きとしている。日々提供される食事を通じ、食材の話題でリビング内が盛り上がり、調理法や旬を逆に入居者に教わる職員の微笑ましい姿が見られた。新年度は運営推進会議をより充実したいとしており、今後の取り組みがホーム運営に反映されることを期待したい所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム清流

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設して5年目を迎えるが、スタッフの入れ替わりがあったり、長く働いている人でも馴れ合いでケアしている場面もあり、全スタッフが共通の理念の下でケアするまでには至ってない現状。今年度スタッフで話し合い介護理念が完成した為それを実践できるようにしたい。	開所時からの理念をもとに今年度新たに介護理念を作り上げ、全職員共通のケアの規範として今後さらに浸透させたいとしている。新事業所の立ち上げに伴う異動などにより、職員の入れ替わりがあったことで、これまでのホームの姿勢を引き継ぎながら体制作りに力を入れている。	管理者は介護理念が出来た経緯について語り、職員意見を反映させるべきだったとしている。新年度にあたり全員で考えた月目標などを設定して、より取り組みやすくしてはどうかと考える。また、運営推進会議等でも紹介されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭やどんどやに参加したり、清掃活動にも参加し地域との交流を図っている。地域の自治会にも加入し清掃活動や会議などにも参加。また、小学校や保育園からも交流に来て頂いたりと徐々に地域から清流にも来て頂けるようになってきている。	自治会での地域清掃や、缶拾い活動に継続して参加している。近隣からの野菜の差し入れを受けたり、昨年の大地震の際にはホームへの避難を呼びかけるなど相互に交流を深めている。また、地元小学校の体験学習の受け入れ時には、グループホームの役割や福祉用具の使い方等について啓発を行っている。学校での発表会で再び児童と顔を合わせた入居者が喜ばれたことなどが、相乗効果となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からご相談があったときは、どこに相談したらいいのか、また、介護の力が必要な時はお手伝いしたりと出来る範囲での活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、出席して頂ける方がほぼ固定しており、地域の方やご家族の参加が少ない現状。参加していただいた方からは意見を聞き、ケアにつなげる様にしている。参加できなかったご家族には議事録を送り、後日面会に来られたときなどにお話を伺うようにしている。	2ヶ月ごとの定期開催が実現している。平日、日中の会議ということで家族の参加は少ないが、毎回案内状を送付し、関心を持ってもらうよう努めている。行事や研修、ヒヤリハットについて報告し、参加者からの意見を求めている。今年度は特に熊本地震時の対応について説明し、指摘やアドバイスを受けている。	次年度は議題を工夫し、参加者からの意見を更に引き出したいとしており取り組みが期待される。また、交流のある小学校や保育園の関係者へ参加を打診する事で、多方面からの意見が運営に活かされるものと思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所での活動報告をしている。また、様々、分からないことがあればその都度電話やメールにて相談し対応していただいている。グループホーム八代支部の会議などにも講師として来て頂き制度改革があったときなど話しを聞ける機会が有り助かっている。	行政からの運営推進会議への参加により、ホームの現状を詳細に報告し、助言や提案を受けている。管理者は質問があれば電話やメールで指導を仰ぎながら、友好な関係を築いている。グループホーム連絡協議会での研修には、行政担当者より制度上の問題について講話の機会が設けられ、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を年に数回行い、ホームでの身体拘束ゼロに会社・職員一丸となってケアに当たっている。日々のカンファレンスなどでも気になる事はスタッフ間で話し合い対応している。	職員はホーム内・外の研修にて、拘束が入居者にもたらす影響について十分認識している。センサーマットを使用する入居者はいないが、人感センサーについては数名の入居者が利用しており、家族の承諾を得ている。また、食事中のエプロンについても一つの拘束と捉え、見守りやタオルで対応している。	職員は馴れ合いの関係から、入居者の言葉に耳を傾けながらも、先走りして話を折ったりする場面もあり、気を引き締める必要があるとしている。また、人感センサーについては、途中経過を家族に報告する事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても施設内研修・外部研修等に積極的に参加し、知識を深めている。スタッフ間でも、気になる事はその都度声かけし合い、不適切なケアはその場で対応し虐待防止に気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について勉強会に参加しているが、それらを活用したことはない。理解するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と照らし合わせ説明し、納得していただいてから契約を行っている。入居後も気になる事や心配なことなどあったときはいつでも声をかけていただけるようお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られたときなどにお声かけをし、ご意見やご要望などないか尋ねている。運営推進会議や行事の後はご家族からご意見・感想を聞き次回に生かすようにしている。	入居者の意見や要望はその都度尋ねており、中にはご自身の方から食べたいものや行きたい場所、やって欲しいことなどを伝えられる方もあり、可能な限り迅速に応じるようにしている。家族については、広報誌などにより行事や取り組みについて関心を持ってもらい、ホームに足を運んでもらうよう心掛けている。来訪時には近況を伝えながら要望等を確認している。また、個々に応じて電話連絡により、身体状況を含め状況を伝えている。	秋に行われたバス旅行に参加された家族より、ADLの差があり、全員がゆっくり楽しめるプログラムではなかった事などの意見が寄せれている。身体状況の異なる入居者や全家族の参加ではない外出行事は困難な点も多々あると思われるが、貴重な意見を今後に活かしていかれることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は代表に伝え対応している。職員の意欲向上の為にも頑張りが評価される仕組みは必要だと感じる。	管理者は共に業務にあたる中で職員の意見や提案を確認している。また、職員が自分の言葉で発言できるような雰囲気やチームワーク作りに努めている。出された提案などは代表者に伝え、出来ることから改善できるようにしている。子育て中の職員も多く、特に勤務体制には考慮し、ストレスケアについても十分配慮する等働きやすい職場環境に努力している。	職員の意見や提案は管理者を通して代表者へあげられている事が多いようだが、今後は代表者を含めた話し合いの場を持つことで、スピード感のある対応に繋がると思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の職員や介護中の職員など職員の状況に応じて就業環境を整えてもらえて、とても働きやすい。また、スキルアップの為の研修や勉強会にも積極的に参加させてもらえ、職員も向上心を持って仕事している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開催し、身近な課題について皆で検討し内容を決めている。また、経験年数に応じて様々なチェックリストを活用し介護技術・知識が身についているか確認するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月他の施設との合同勉強会を開催し、グループワークなど行う事で、他のホームでのケアを知ることができ、自分達のケアの振り帰りができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・家族と面会し話を聞き、不安なくホームで生活出来るようにしている。なるべくこれまでの暮らしと変わらないように、情報を集め環境を整えたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、相談に来れれたときは、ご家族の話もしっかりうかがうようにしている。こちらが、お尋ねしたい事よりもご家族の話をしっかり聞くように心がけ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族からの情報はホームで話し合い、本当にグループホームに入居が本人のためにいいのか、また他のサービス事業所だとどうなのか話し合い、本人にとっていい環境で過ごせるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は介護されるといった一方的な立場ではなく、いろいろな事を職員が教えてもらったり、利用者に相談に乗ってもらったりと、共に過ごす大家族のような関係が築けるよう励んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に利用者の状態報告をしたり、本人の気持ちを代弁したりし、本人と家族の絆を大切にと思っているが、なかなか共に支えていく関係まで至っていない現状。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や買い物など以前行かれていたお店に出かけるようにしている。お友達の面会やお友達とのお出かけ等も家族に了解を得て行っている。	家族や友人・知人との関係が途切れないよう、面会時には、ゆkっくり過ごしてもらい次の訪問も依頼している。入居者がこれまで通っていた美容室や商店などに出かけたり、家族の協力も得ながらシャンプーや化粧品なども使い慣れた物を引き続き利用できるようにしている。また、芋の苗植えや収穫、草むしりなどこれまで経験してきた畑作業にも取り組める環境を整備している。吊るし柿や漬物（高菜・大根）作りなども先人の知恵を活かした取り組みが継続され、一品として食卓に上っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルも時にはあるが、その都度カンファレンスなどで話し合い対応している。本人の性格を把握し対応出来るようになってきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった場合も必要時相談を受けたり情報提供を行ったりしている。その後も本人に会いに行ったりと、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声・話を聞き、意向を聞くように心がけている。思いを伝えられない利用者に対し、十分な把握まで至ってない現状。	本人の思いや意向は全職員が日頃から傾聴の姿勢を心がけ把握している。そのため、1日のうち一緒にゆったりと過ごす時間を持つようにしている。思っていることがあっても言えない方もあり、動きや表情から汲み取ったり、家族に尋ねるながら本人・本位に検討している。リビングや中庭、玄関先など、職員は個々の安心できる場所で寄り添いながら耳を傾ける光景があった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からこれまでの生活や馴染みの暮らしについて尋ね記録に残している。また、面会の友人や馴染みの店などから得た情報も記録に残すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録にいつもと違うことや、本人の思いを残している。また、ケアの中で様々な気付きがあるが、それを記録に残せていない為、職員の共有までには至っておらず、今後の課題。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向や、日々の記録や、カンファレンスでの話し合い、などから計画作成者がプランを作成している。今後はモニタリング、アセスメントを担当でできるようにしていきたい。	計画作成担当者は本人・家族の意向やカンファレンスで出された意見、ケア記録から把握できた問題点や現状を踏まえプランを作成している。また、夜間の状態など不明な点があれば、その都度確認するなど、コミュニケーションに努めている。家族へのプラン説明においては、話しやすい雰囲気や口調などにも十分配慮し進めており、納得のうえ了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に、ケアの結果、気付き、工夫などが十分にできていない現状。カンファレンスなどでその都度話し合いをし、情報共有し計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあった場合、できる限り実現できるよう検討し対応している。家族だけでは対応が困難な場合には職員が一緒に行ったりとできる限りはするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店や美容室などに出かけたり、なじみの人に会いに行ったりと地域資源を活用しながら楽しみを持ちながら生活出来るようにしている。また、消防訓練などに地域の消防団にも声賭けし、いざという時に協力していただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もこれまでの馴染みのかかりつけ医の受診を継続して頂き、いざという時には、ホームの協力医とも連携を図りながら対応している。	これまでのかかりつけ医を継続して支援しており、現在3ヶ所の医療機関にホームが受診を行なっているが、外出支援を兼ねて家族が対応されるところもある。日々の健康管理は看護職員が中心に行う他、申し送りなどを活用し一人一人の健康状態を全員で共有し、気になることがあれば早めの受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、利用者の小さな変化も記録に残し、気になる事は看護師に相談し早めの対応を心がけている。看護師とは24時間連絡が取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は病院に付き添いホームでの状態やケアについての事の情報提供を行っている。入院後も定期的に病院に行き、スムーズに退院できるよう医師・看護師と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、や終末期における方針について事前に本人・家族から定期的に意向をきき対応するようにしている。吸引が必要になり、ホームでの見取りを断念した経緯も有り、今後は喀痰吸引の研修等に参加し、体制を整えていきたい。	重度化や終末期における指針を家族へ説明し、事前指定書を作成している。その時にならないとわからないとする家族の率直な気持ちを受け止め、定期的に確認を行っている。家族は慣れ親しんだホームが安心であり、看取りを希望される方も多い現状であり、今後のホームの体制（研修や訪問看護連携など）を作り、思いに応えたいとしている。	ホームでの看取りを断念した経験から、今後の体制について様々な見直しが検討されている。引き続きホームにできる最良の支援で入居者・家族を支えていかれることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月研修会を行い、その時に緊急通報の訓練や状態報告の訓練を行い緊急時に備えている。また、緊急時マニュアルを作成し対応を把握したり、勉強会に参加し知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定の訓練は定期的に行っている。地震想定の訓練は1回のみ実施。様々な状況においてのマニュアルを作り職員が直ぐに動けるよう体制を整えて行く必要あり。（マニュアルは製作中）	今年度は2回、入居者も参加した火災訓練や地震想定の訓練を実施している。熊本地震では、ホームに大きな被害はなかったが、近隣のご夫妻に、不安や恐怖の時は、ホームを頼って欲しいと申し出ている。備蓄については、水やカンパン・アルファ米・カセットトイレなどを揃えている。	今後も想定を重ねた地震訓練の実施に期待したい。また、備蓄品の定期的な点検や、コンセントの埃・ホーム周りに可燃物がないか等、安全確認への取り組みに期待したい。今後、改善した内容については、家族や運営推進会議の中で報告を行う事で安心に繋がると思われる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉には十分気をつけ対応しているが利用者との生活が長くなるにつれ馴れ合いの話し方になっている場面もある。気付いたスタッフがお互いに声掛け合い、また定期的に勉強会を行い振り返るようにしている。	本人の望む生活が尊厳にも繋がるとし、その方が「自宅にいたらしたい！できる！」支援をプランに入れ、実現できるようにしている。言葉使いは馴れ合いにならないよう、また、失礼の無い対応など管理者は日頃から気になることがあれば、勉強会の中で指導や職員自身が振り返るようにしている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、写真掲載など個人情報については、本人・家族の了承を得て使用している。	居室はその方の家でもあり、在室の有無に関わらずノックの徹底が望まれる。また、職員の守秘義務については、入職時に指導が行われているが、今後も定期的に周知徹底の機会を持つことが必要と思われる。入浴時など同性介助については、中には遠慮や言い出せずにおられる事もあり、あらためて聞き取りの機会を持っていただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにもまずは本人に話を聞くことを基本に本人の意向を伺うようにしている。なかなか希望を表出されない方は、表情やしぐさ、本人の様子から意向を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	待つケアができていない現状で、職員ペースになっていることが時々みられる。業務を優先してしまい、利用者に待っていただくこともあるが、約束は必ず守るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、場所に応じた服に着替え、お化粧をし出かけている。カットにも本人の希望に応じ美容室で希望を伝えたり、一緒に洋服を買いに出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えたり、食事を一緒に作ったりと利用者と一緒にすることを心がけている。嫌いなメニューの時は別のメニューを提供している。	献立は旬の食材や個々の希望を聞きながら決定し、専任者を中心に多くの材料を使い調理されている。食材は物産館やスーパーなど入居者も一緒に出かける他、菜園で野菜を作ったり、高菜漬けや巻き寿司、干し柿・おはぎ作りなど、可能な限り食へ関わる機会を持っている。ホームベーカリーを使った朝食、おせちや誕生会メニュー、ソーメン流しなど季節やイベント食も好評であり、「竹の子は旬ですよ！旬は美味しかですよ！」と、入居者がホームの料理を嬉しそうに紹介されるなど、日常の光景も見て取れるようであった。	元気のない入居者に何か食べたい物を尋ねたところ、「唐芋！」と即答され、その日のおやつで提供するなど、ホームの取り組みが伝わるエピソードである。今後も、入居者に楽しい食事支援を継続いただきたい。食事中の洗い物の音は、食事を急がせてしまうこともあり、時間をずらして行うことが必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少ない方は水分チェックを行い注意している。栄養バランスを考え食事提供しているが、糖尿病や高血圧の方に対しての食事が上手く行っていない現状。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士に口腔ケアに入っていただき口腔状態の把握に努めている。磨き残しがある方には仕上げ磨きをして口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう援助している。なるべくオムツを使わなくていいように布パンツに変更したり、失敗が少なくなるように声かけを行ったりしている。	個々の排泄パターンを共有し、自立の方の継続や声かけ・誘導によりできるだけ失敗のないように取り組んでいる。可能な限りオムツに頼らない排泄支援に努めており、日中は大半が布パンツで過ごされている。また、排泄用品は昼・夜での使い分けなど適切な物を検討し、購入はホームで行っているが、面会を兼ねて家族が準備されるところもある。	トイレ掃除は早出職員や朝食後など、担当や時間を決め清潔に管理されている。今後は職員自身も入居者と同じトイレを使用してみることで、使い勝手や目線など細かな気づきが得られるものと思われる。また、排泄用の洗浄ボトルについては、収納場所の見直しに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を提供したり、ミルミルを提供したりしている。また、ゆっくりトイレに座れる環境を整えたり、排便のタイミングを逃さないように注意したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日本人の希望通りには行かないが、希望に添えるよう支援している。温泉好きの利用者には入浴剤を入れたり、時には温泉に出かけたりと個々にあわせ支援している。	入浴は週3回、午後を中心に、拒否の方にはタイミングを大切に誘導や声かけを行っている。菖蒲や柚子の季節湯を楽しんだり、森林の香りなどリラックスできる入浴剤も使用している。シャンプーはホームで準備しているが、好みや使い慣れたものを家族が持参されるところもある。また、全員ではないがドライブを兼ねて温泉施設へも出かけている。	浴室内は清潔に管理されており、今後は窓の棚の整頓を行うことで、スッキリとした空間となり、より寛げる入浴に繋がると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促す為照明、室温、湿度には注意している。また、寝具も気持ちよく休めるよう気温によっても変えたり、洗濯・布団干しも定期的に行ってる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個人別に袋を用意し、誰が見ても分かるように薬剤名・用量・用法が一目でわかるようになっている。また、服薬一覧表をファイルにして確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で自分で出来ることは自分でしていただくことで役割ができ張り合いのある生活が送れている。また、散歩に行ったりカラオケに行ったり外食に出かけたりと本人のやりたい事が出来るよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物には利用者と一緒に出掛け、気分転換を図っている。自宅に帰ったり、お友達と過ごすお手伝いをしたり、花見に行ったり、散歩に出かけたりなど定期的に外出できるよう支援している。	外出は気分転換や地域の人々との交流の機会でもあり、入居者の希望も聞きながら可能な限り応じるようにしている。畑での野菜作り（じゃがいも・さつまいも等）や花見（菜の花・桜・ツツジ・紫陽花など）は、開花時期や天候に合わせて出かけており、今年度はバス旅行として、水俣のバラ園へ遠出している。ホームの庭先は広く、普段から外気浴や青空ランチを楽しんだり、妙見祭の亀蛇の来訪もこの場で受けている。家族の協力としては、帰省や外食なども行われている。これらの外出の様子は、2ヶ月ごとに広報時“清流での様子”として家族へ渡されている。	入居者の身体状況から、敷地内での外気浴や外食など個別支援の充実に努めており、今後も入居者の笑顔を引き出す外出支援の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされている方はいなくなったが、買い物に出かける時は、財布にお金を入れて会計は自分で出来るようにし買い物を楽しめる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人など、誰かと連絡取りたいときには、いつでもなじみの声が聞けるようにしている。手紙のやり取りは無いが、年賀状を家族に出すお手伝いをしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅からなじみの家具を持参していただき、居心地のよい空間作りに気をつけている。共用スペースには手作りの飾りや置物で明るい雰囲気作りに心がけている。ソファーを多く置いて一人の時間が欲しい方にはそこでゆっくりできるようにしている。	リビング食堂には2台のテレビや多めのソファが配置されており、気のあった入居者同士や一人でゆっくりされる方など、思い思いの時間を過ごせる空間となっている。また、回廊の中庭には季節の花や野菜のプランターなども置かれており、心和む場所となっている。玄関やホーム内の掲示物は、季節を感じてもらえるよう、職員はアイディアを出しながら製作しており、換気や室温管理も入居者の状況に応じて行っている。掃除の際は独歩や車椅子利用者の動きを考えながら行っており、モップがけを手伝われる方もおられる。	リビングのレースのカーテンを開けると採光や視界も広がることから、可能な限り解放される時間を持っていただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには仕切りがないが、ホールのいたる所にソファーが配置されており、日当たりのいい場所、テレビが見やすい場所、寝心地のいい場所など用途に応じて思い思いに過ごせる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族に話を聞きながら落ち着く空間作りを心がけている。本人の作った作品を飾ったり、馴染みの家具を配置したりしている。	さくらやもも・こすもす等花の名が付けられた居室は、正方形で十分な広さが確保されている。入居の際には、家にある使い慣れた家具などの持ち込みを依頼しいるが、「家にあるものは古くて・・・！」と、言われる家族もあり、だからこそお願いしたい旨を伝えている。馴染みの家具や必要な衣服、お気に入りの帽子やストール、カレンダーなど、家族や本人のこだわりなどが詰まった居室である。職員は身体状況に応じながらベッド向きや高さ、物品の配置など、安全面にも十分配慮した環境に努めている。	衣替えは家族にも協力を依頼しているが、ホームが中心に行っている現状である。今後も面会を兼ねて、衣類の確認や本人に必要な物品等家族と一緒に進めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自分で出来るように、背の低い利用者のためにトイレの表示を低いところにしたり、電気の紐を長くして自分で消灯が出来るようにしたりと工夫している。		